

公益財団法人とよなか国際交流協会

2020 年度年次報告書 (概要版)

# こくりゅう@home 2020

2020年4月1日～2021年3月31日 (27期)

公正で持続可能な多文化共生社会をつくります



とよなか国際交流協会 2020年度年次報告書(概要版) こくりゅう@home 2020

も・く・じ

もくじ・とよなか国際交流協会の活動について 2  
 理事長・事務局長あいさつ 3  
 外国人をとりまく現状とATOMSの取り組み 4-5  
 <各事業からの報告>  
 ・学習支援・サンズレイス/子ども母語 6  
 ・多文化保育「にこにこ」/韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい 7  
 ・若者支援事業/外国人のこども白書・子どもの夢応援ネットワーク 8  
 ・小学校外国語体験活動事業/学習日本語「こんばす」 9  
 ・多言語相談サービス事業 10-11  
 ・国際教育/Filipino Young at Heart's Club 12  
 ・防災事業/平和と共存のための～おまつり地球一周クラス 13  
 ・留学生・ホストファミリー事業/しょうない・おやこでにほんご 14  
 ・おかまち・おやこでにほんご/せんり・おやこでにほんご 15  
 ・日本語交流活動「千里にほんご」/南部にほんご・オンラインにほんご 16  
 ・日本語交流活動「もっともつつかえるにほんご」「とよなかにほんご・木ひる」 17  
 ・日本語交流活動「とよなかにほんご・金あさ」「にちょうがちゃがちゃだん」 18  
 ・多文化共生推進事業/ボランティア養成・研修・哲学カフェ 19  
 ・持続可能な開発のための教育の10年(ESD)とよなか/通訳派遣  
 /メディアリテラシー・市民セミナー/講師派遣/EPA介護福祉士候補者のための日本語 20  
 ・市民活動協働事業/TOPICS① 21  
 ・情報サービス/施設管理受託事業 22  
 TOPICS② 23  
 コロナ禍におけるとよなか国流の取組 24-25  
 財務報告 TOPICS③ 26-27  
 協力者ご芳名 28  
 役員紹介/スタッフ紹介 29  
 事業一覧 30  
 広告協賛 31-32

とよなか国際交流協会の活動について

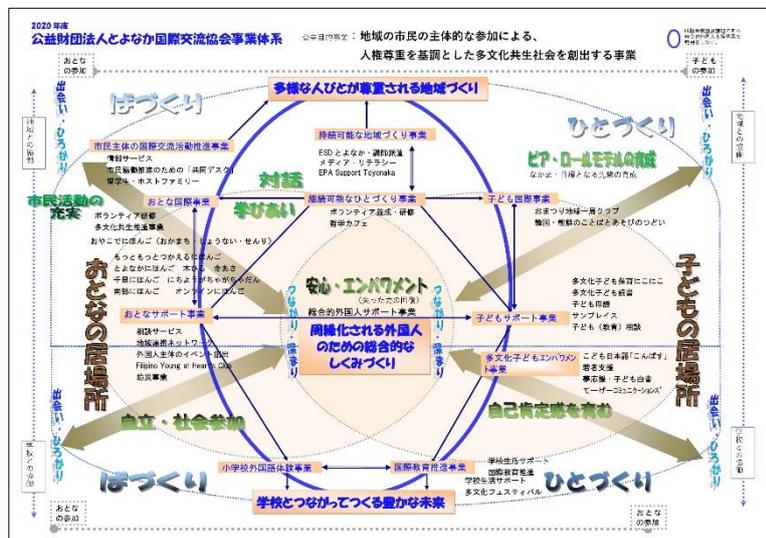
～公正で持続可能な多文化共生社会を創ります～

外国人が安心して集える居場所づくり&エンバウメントをすすめる事業や多文化共生社会を推進するひとづくりを中心に、さまざまな活動を地域や学校と連携しながら日常的に展開しています。

【活動理念】市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、

世界とつながる多文化共生社会をつくる

受賞歴	
2016.10	大阪 NPO センター CSO アワード CSO 賞
2014.01	大阪弁護士会 人権賞
2013.05	憲法記念日 大阪府知事 公共関係功労者賞
2013.02	公益財団法人パナソニック教育財団 2012 年度 「子どもたちの“こころを育む活動”」奨励賞



## 理事長あいさつ

2020年は、新型コロナウイルスで始まり、新型コロナウイルスで終わった1年でした。2度の緊急事態宣言にもかかわらず、結局、残念ながら感染拡大には歯止めがかかりませんでした。

そして、1年以上にもおよぶ新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、非正規雇用労働者の失業増加や家庭内DVの増加、子ども・若者への教育的・心理的悪影響、などなどの問題が指摘されているようです。当協会の多言語相談サービスへの相談件数は、前年と比べて倍増致しました。

そんな中、当協会のスタッフ及び多くのボランティアは、孤立しがちな外国人が孤立せず、安心・安全に暮らせるようにするにはどうすれば良いか、日々迷いながら、検討を重ね、事業を進めてきました。しかも「うがい・手洗い・マスク&スマイル」というぐらい、明るく前向きに。

そうした活動の結果を、当協会の2020年度年次報告書（概要版）として、ここに皆様にご提示させていただきます。各事業の報告をご覧ください。スタッフ及びボランティアが、コロナ禍の中、何に迷い、どのような検討をし、事業を進めてきたのか、ちらっと想像して頂ければありがたいです。

では、皆さま、よろしくお願い致します。



まつもとやすゆき

松本康之 (理事長)

## 事務局長あいさつ

2020年度は新型コロナウイルスの影響で全く予想外の1年になりました。

国際交流フェスタ、多文化フェスティバル、世界のお化け屋敷など大勢が集まる企画はことごとく三密回避のため形を変えるか、中止せざるを得ませんでした。ホストファミリー事業ではそもそも留学生が来日できないという状況がありました。

その一方で、にほんご交流活動や外国ルーツの子どもの居場所事業などの定例事業は対面での活動・オンラインでの活動・休みとを織り交ぜながら何とかつながりの維持に努めてきました。相談事業は実施日の追加、体制の拡充を図ったほか、多様な団体・部署と連携して相談会を行うことができました。このほかパンソリライブの開催、市内公共施設と連携してとよなかシネコンを開催したり、「世界を食べよう」では家でも体験できるようレシピ集を発行しました。

コロナ禍の中、地域で暮らす外国人の状況を考えると決して十分とは言えませんが、今、何が必要か、何ができるか、しぶとくひねり出せたのではないかと思います。

今期からとよなか国際交流センター指定管理第4期がスタートします。秋にはセンターの空調設備改修工事が始まります。なかなか状況は落ち着きませんが、粘り強く、しっかり取り組んでいきたいと思っています。今年度もよろしくお願い致します。

やまのうえたかし

山野上隆史 (事務局長/常務理事)



# 外国人をとりまく現状とATOMSの取り組み

とよなか国際交流協会  
通称 **ATOMS** (アトムス)

## 基本理念

市民の主体的で広範な参加により、  
人権尊重を基調とした国際交流活動  
を地域からすすめ、世界とつながる  
多文化共生社会をつくる。

## 事業の三本柱

- ① 多様な人々が尊重される地域づくり
- ② 周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり
- ③ 学校とつながってつくる豊かな未来

## ●豊中市の外国人人口と国籍数 [2021年3月末]

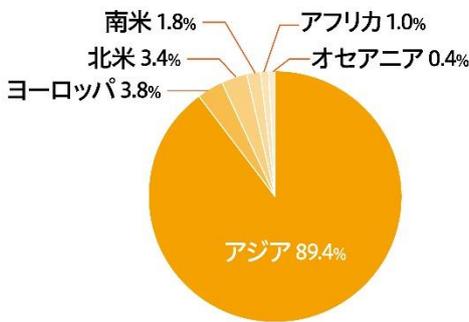
[人口] **6,118人**

\*豊中市の総人口(408,736人)の約1.5%

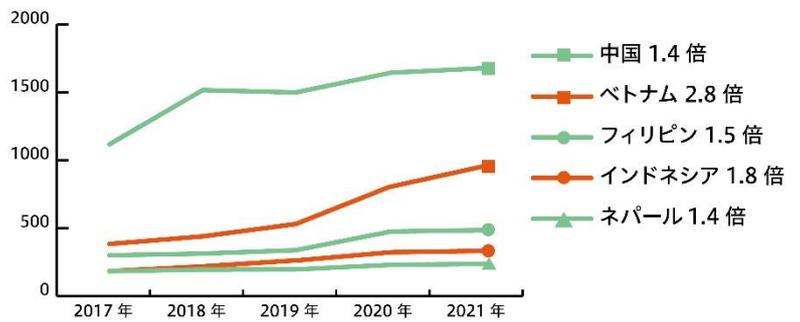
この5年で豊中市に暮らす外国人の数は  
約30%増加しています  
(参照) 2016年3月末の外国人人口 4,728人

[国籍数] **90ヶ国・地域**

### ■ 出身圏の割合 → 約90%がアジア出身

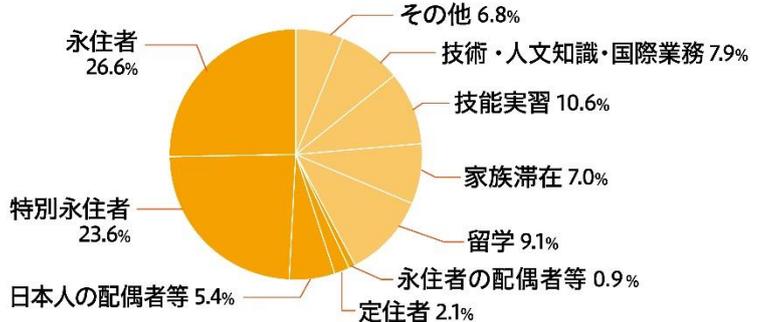


### ■ この5年で特に増加率が高かった上位5ヶ国



国・地域別の上位10	順位	国籍・地域	人数
1	韓国・朝鮮	1,900人	
2	中国	1,655人	
3	ベトナム	796人	
4	フィリピン	303人	
5	インドネシア	157人	
6	米国	156人	
7	台湾	134人	
8	ネパール	125人	
9	インド	111人	
10	タイ	78人	

### ■ 在留資格別割合 → 長く暮らす人が増えています



## 取り組み

### 1 外国人のライフステージに沿った多様な支援

- 乳幼児
  - 多文化子ども保育「にこにこ」... P.7
  - おやこでにほんご... P.14
- こども
  - こども母語(4言語)... P.6
  - 学習支援「サンプレイス」... P.6
  - 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい... P.7
- わかもの
  - 若者支援事業... P.8
  - 留学生・ホストファミリー事業... P.14
- おとな
  - 多言語での相談サービス(11言語)... P.10
  - 日本語交流活動... P.16
  - おやこでにほんご... P.14
- 高齢者
  - 多言語での相談サービス... P.10
  - Filipino Young at Heart's Club... P.12  
(フィリピン人の中老年支援事業)

**受賞歴**

- 2016年 大阪NPOセンター CSOアワード CSO賞
- 2014年 第13回大阪弁護士会 人権賞
- 2013年 憲法記念日 大阪府知事 公共関係功労者賞
- 公益財団法人パソニック教育財団2012年度「子どもたちの「こころを育む活動」」奨励賞

◆(公財)とよなか国際交流協会は指定管理者としてとよなか国際交流センターの管理・運営を行っています。

Facebookページ

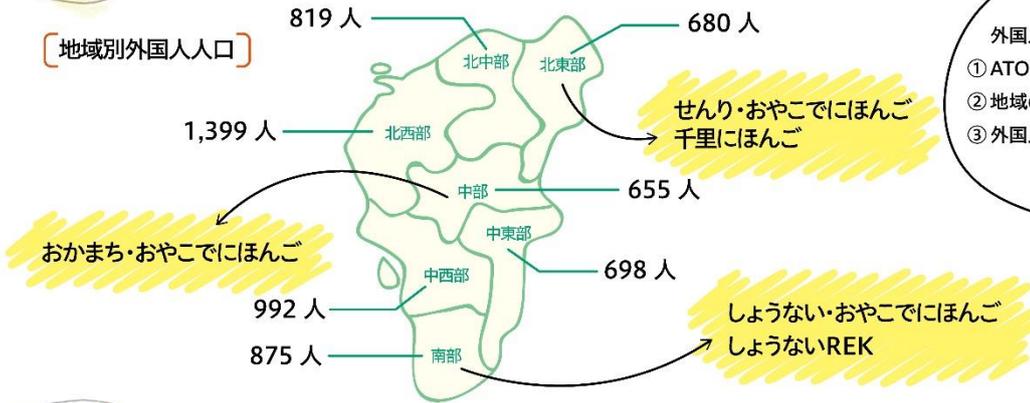
とよなか国際交流協会 で検索!



取り組み  
2

センターから飛び出して実施している事業

〔地域別外国人人口〕



外国人人口は各地域で増えていますが、  
① ATOMSの存在が充分知られていない  
② 地域の人が外国人の状況や課題をよく知らない  
③ 外国人が孤立している(ご近所とつながりがない)などの課題があります。



取り組み  
3

さまざまな団体と一緒に取り組む活動

学校との協働

- 小学校外国語体験活動
- 多文化フェスティバル
- 講師派遣
- 多言語による進路ガイダンス
- ニュースレター『こくりゅうだより』表紙イラスト(池田高校、桜塚高校)
- 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい

図書館との協働

- 「おやこでにほんご」 → 岡町、庄内、千里図書館
- 多文化子ども読書推進事業

地域のさまざまな団体との連携

- しょうないREK → 外国にルーツを持つ中学生のための進路相談会@庄内など
- 豊中市スポーツ振興事業団 → 「サムライプロジェクト」(外国人のための武道体験)
- とよなか国際交流センター登録団体との連携 → 国際交流フェスタ など
- 共同デスク=6団体\*が共同運営している事業(2019年度現在) → 中間支援組織間の情報共有・連携

※(社福)豊中市社会福祉協議会、(一財)とよなか男女共同参画推進財団、(公財)豊中市スポーツ振興事業団、(特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21、(特活)とよなかESDネットワーク、(公財)とよなか国際交流協会の6団体。

取り組み  
4

地域で活動する市民ボランティア

ATOMSで活動するボランティア 約360人

\*昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休止となった活動が多かったこと、新規ボランティアの募集をかけられなかったことが要因でボランティア数が大幅に減少しました。

にほんごボランティア:145人  
ママさんボランティア:25人  
大学生・高校生ボランティア:22人  
外国人ボランティア:67人  
ホストファミリーボランティア:90家族 他  
賛助会員:個人会員146人、団体会員6団体

2020年度の大きな出来事

コロナ禍の影響

- 感染予防のため、またコロナに対する不安や負担から、ボランティアの人数は例年よりも大きく減りました。また、1回目の緊急事態宣言時(2020年4月~5月)には国際交流センターを休館にしたり、それ以降も貸館やイベント等の定員を減らしたり、また事業によっては参加者数も制限するなどしました。国際交流センターの利用者、協会活動への参加者も大きく減少しました。

コロナ禍での ATOMSの取り組み

- 2020年2月3日に災害時多言語情報支援センターを設置しました。
  - ・ 多言語での情報発信(1年間で約1,100件)
  - ・ 多言語での相談対応(1年間で約2,000件:例年の約2倍)
  - ※10言語でfacebookページを作成し、情報提供を行いました。
- 外国人の孤立を避けるためオンラインでの取り組みを進めました。
  - ・ 日本語交流活動、多言語相談サービス、おやこでにほんご、若者のたまりばなど。
- 豊中市福祉部や豊中市社会福祉協議会と連携して相談会を実施しました。
  - ・ 生活困窮、就労支援、食料配布など分野横断的に取り組みました。また、相談件数は例年の約2倍に増えました。

★ 2021年度に向けて

市と協働でコロナ禍が外国人住民に与えた影響について調査研究を進め、この間の取り組みについて検証を行います。そして、外国人とその支援者、さらに様々な関係機関・団体とのネットワークの構築を進めていきます。

こども  
サポート  
事業

## 学習支援・サンフレイス

外国にルーツを持つ子どもたちのための居場所づくり。大学生ボランティアが運営しています。  
毎週日曜日 13:00~15:00 (第一日曜日は休み)

ボランティアより

## 2020年度を振り返って

サンフレイスは子どもたちがやりたいことを全力でできる場所です。学生ボランティアのお姉さんやお兄さんと一緒に遊びやおしゃべり、勉強など何でもできる場所です。

2020年度は新型コロナウイルスの影響にもかかわらず、感染対策を徹底したこともあり多くの子どもたちが参加してくれました。それぞれの子どもたちが自分らしく、毎回来たくなる居場所づくりに今後も励んでいきます。

## 2021年度に向けて

2020年度に行ったイベントはボランティア考案のアイデアを基に進めたものだったので、2021年度にはイベントだけではなく、活動においても子どもたちのやりたいことを取り入れた活動を行っていきます。



写真右) 今年も卓球が大人気でした!  
写真左) 自由に、ありのままに過ごせる場所です

こども  
サポート  
事業

## こども母語

外国にルーツをもつ子どものための母語教室。中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語を開講しています。講師はそれぞれのルーツをもつ若者です。(ポルトガル語、タイ語は現在休講中)  
第2、第4日曜日 10:00~12:00

ボランティアより

## 2020年度を振り返って

2020年度の活動は新型コロナウイルスの感染拡大により例年のように各母語教室との交流など、充実した活動はできませんでした。その中でも子どもたちの興味・関心に基づいた新しい教材を使い、学べる範囲を広げながら母語に触れることができました。同時に母語を学ぶだけではなく、子ども同士が友だち作りをできる場所としても提供できました。

## 2021年度に向けて

普通の教室で母語の習得だけではなく、自国の文化や歴史などにも触れる機会を作りたいです。また子どもたちが楽しく学べるようにゲーム感覚でできる学びのスタイルも作っていきたいです。



写真左上) 母語教室を運営するのは、外国にルーツを持つ大学生スタッフです。

写真右上) 中国語の母語教室の様子  
写真左下) 絵カードや絵本など、いろいろな教材を使って母語を学びます

こども  
サポート  
事業

# 多文化子ども保育「にこにこ」

外国にルーツをもつ乳幼児のための保育活動。保育ボランティアが運営しています。  
毎週木曜日 13:30～15:30 / 金曜日 10:30～12:00

ボランティアより



## 2021 年度に向けて

2021 年度は活動が再開して、何の心配もなく笑顔で子どもたちと遊べる日が来ることを望んでいます。保護者が安心して子どもたちを預けられるように環境を整えて、ボランティア全員で子どもたちが来る日を待っています。今以上に子どもたち、保護者の方同士のコミュニケーションの場となり、またボランティアが日本における子育ての悩みを聞いてあげることができたらと思います。

## 2020 年度を振り返って

今年度は通常の活動がほとんどできず、とても寂しい一年でした。そのことによって対面の保育がいかに大事か思い知らされました。一時再開した時には子どもたちも戻ってきて、うれしい時期もありました。年齢も性別も違う子どもたちが、おもちゃや遊具を譲り合い、助け合う姿は大人も見習わない、と思いました。子どもたちが日々成長する姿はとても励みになります。保護者に安心して預けてもらえる様、環境を整え、おもちゃなどの消毒を行い、安全に留意し活動をしたと思います。

写真上) 保育ボランティアがいつも一緒です

写真左下) 回数を重ねるごとに一緒に遊ぶことができるようになってきました。

写真右下) 遊具で遊ぶの大好き

こども  
国際  
事業

# 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい

韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちが集まり、民族講師（ソンセンニム）や友達（チング）と自分たちの歴史や言葉、遊びなどの文化を学んでいます。毎月第3土曜日午前中に開催。

共催団体の豊中市在日外国人教育推進協議会の先生方より

## 2020 年度を振り返って

コロナ禍での活動は制約が多かったです。今まで当たり前のようできていたことができず、月1回のつどいは不定期になってしまいましたが、昨年40周年を迎えた「ハギハッキョ」は、半日開催ではありましたが、今年度も行うことができました。同様に、半日開催になってしまった多文化フェスティバルにも、例年通り参加することができました。

いつもと違う日常の中での活動を通して、一緒にいる時間は少なくとも、つどえる場を保障することが、何よりも大事だと思いました。細くなっても続けたことが、次へつなげることになっていると信じています。



## 2021 年度に向けて

相変わらず制約が多くなりそうですが、月1回のつどいの場が、子どもも大人もごちゃまぜになって、ワイワイ言いながら遊んだり学んだりできる「わちゃわちゃとした場」であり続けられるようにしたいです。



写真上) こども・ボランティアみんなで体を動かしながら楽しく学びます

写真左下) ゲームを通して韓国語を学びました

写真右下) お正月のあいさつの練習

多文化こども  
エンパワメント  
事業

## 若者支援事業

外国にルーツをもつ若者のための居場所づくりをさまざまな角度から行っています。15歳以上の外国にルーツをもつ若者が中心となり、国際交流センターでの活動だけでなく、地域で色々な活動に取り組んできました。

コーディネーターより

### 2020年度を振り返って

外国にルーツを持つ若者の実態調査や、ネパール人の子ども・若者交流会なども実施しました。実態調査はまとめの報告論文を作成しました。「たまりば」では感染予防を図りながら、フィジカル・ディスタンスを保ったレジンや料理づくりなどの対面型の開催やリモート開催、遠足などをしました。コロナ禍だからこそ、コロナ以前からあった、「しんどいこと」が浮き彫りになったと思っています。家族・学校・職場だけじゃないつながりが大切で、「場が開かれていること」の重要性を再認識させられた1年でした。

### 2021年度に向けて

感染予防を図りながら、どんなかたちであっても「場が開かれていること」を大切にしたいと思います。また、調査で明らかとなった諸課題を解決できるよう、今後の活動や支援について考えていきたいと思っています。



写真上) マカロン作りに挑戦

写真左下) フィリピン食材店へのフィールドワーク 写真右下) たまりばでカタリバ

多文化こども  
エンパワメント  
事業

## 外国人のこども白書 子どもの夢応援ネットワーク

外国にルーツを持つ子どもたちを支援する関西の個人・団体によるネットワーク活動

### 2020年度を振り返って

対面でのミーティングのほか、感染状況に応じて、オンラインでもミーティングを行い、メンバー間で情報交換や視察、企画の検討を行いました。企画について、文部科学省の担当者を招いたシンポジウムの実施、大阪市教委主催セミナーの企画・講師の担当や毎年行っている「ともに生きるシンポ part4 外国につながる若者の支援を実践・実績から学ぶ」をオンラインで実施しました。



### 2021年度に向けて

定期的な情報交換などのほか、シンポジウムやセミナー、視察などで学んだことをもとに、少しずつネットワークでの取組を進めていきたいと思っています。

写真左) 研修会を大阪市教委からの依頼で企画、運営。  
写真右) 若者の就労支援について考えるため、視察研修も実施しました。

学校とつなが  
ってつくる豊かな  
未来事業

# 小学校外国語体験活動事業

豊中市のすべての小学校（全41校）の3年生～6年生のクラスに、地域に暮らす外国人ボランティアを派遣して、ルーツのある国の文化や言葉を紹介します。豊中市教育委員会の委託事業。

## 2021年度に向けて

今年度は新しい形の研修を実施して反響が良かったので、来年度以降は更に人権・多文化共生につながるような研修を積極的に取り入れていきたいです。学校で行う事前打ち合わせの重要ポイントやその他事業の流れなどをコーディネーター内でもっとしっかりと共有して、外国人ボランティアの不安や緊張などを少しでも軽減していけるように工夫していきたいと思っています。



写真上) 授業の様子。ベラルーシについて。  
写真中) 授業の様子。中国について。  
写真下) 外部講師を招いて実施した外国人ボランティア研修の様子。ワークショップを通して様々な意見交換ができました。

コーディネーターより

## 2020年度を振り返って

新型コロナウイルスによる休校の影響で、授業実施希望の学校や学年が、例年に比べて減ったものの「英語以外の外国語」の希望数がほぼ変わらなかったことから、このプログラムの大切さを認識して下さっている先生が沢山おられると感じて心強かったです。大変な時期だからこそ、小学校外国語体験活動を通して子どもたちが「すぐ近くに外国人が住んでいること」を知り「違いを認めることができる」きっかけとなるプログラムになって欲しいと改めて思っています。

NEW

多文化こども  
エンバワメント  
事業

# 学習日本語「こんぱす」

日本語指導グループ「とよなか JSL」が運営主体となって新たに日本語指導を開始。外国にルーツを持つ子どもの日本語教室を毎週火曜、金曜 17:00～19:00 に実施しています。学齢超過の若者の日本語サポートと高校進学支援も行っています。

ボランティアより

## 2020年度を振り返って

2020年度、コロナ禍の中「学習日本語こんぱす」として活動を再開しました。海外との人的交流が極端に減った中、参加する子どもがどれだけいるのかといった中でのスタートでした。そんな中、子ども同士の会話ではなんとか通じていても、授業や社会生活の中では十分に日本語が理解できていないと感じる子どもは、まだまだいることがわかり、日本で生活、進学していく子ども達の手助けになればと思っています。

## 2021年度に向けて

子どもの日本語における問題点はそれぞれ違います。それらを的確に見つけ出し、それぞれに応じた指導をして将来の学校生活につなげられるようにしていきたいと思っています。



写真上) 1対1でしっかり日本語を学びます  
写真下) 夏にはオンラインにも挑戦しました。

## おとな サポート 事業

# 多言語相談サービス事業

外国人市民が地域で安心して生活できるよう、必要な情報の提供と相談サービス（電話、面接）を多言語で行う。相談体制：月/火/木/金/土曜日 11時～16時／日本語、英語、フィリピン語、タイ語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語（事前予約要）、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ネパール語

### 2020年度相談実績について

2020年度の相談件数は1,848件。今年度から相談日を増設したことにより、相談件数は大幅増となった（前年度952件）。

年度当初の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言時に、来館や面談をできる限り避けるため、リモート対応を導入したが、宣言解除後も、相談者の希望や状況に応じて、リモートやSNSにより相談対応を行った。また近年は、来談経緯が口コミからSNSに変わり、SNSによって当協会や支援を知り、アクセスしてきた相談が、社会情勢とも相まって、今年度は顕著に増加している。

新型コロナウイルスに関わる相談は525件（28.4%）。その半数はネパール、フィリピン国籍で占めた。在留資格では、永住者・配偶者・定住者が計37.1%、家族滞在が18.5%、技能実習と留学が計20.3%。永住者・配偶者・定住者の半数はフィリピン国籍で（52.8%）、支援施策の手続きに関する相談が多く、活動に基づく在留資格の半数はネパール国籍で（54.7%）、飲食業を営むネパール人とその家族、留学生の、生活困窮と求職の相談が多かった。

▽相談者の居住地：例年と傾向は変わらない

豊中市 49.2%、大阪府下全域（豊中市含む）約85%、兵庫県約4%、中部、関東、九州、東北、北海道、海外からの相談もあった。

▽国籍：ネパールの増加が顕著

フィリピン 25.9%、中国 18.5%、ネパール 16.6%、韓国、ベトナム、タイがそれぞれ約5%。ネパールの相談の増加が顕著である（前年度約10%）。

日本国籍だがルーツが日本以外を持つ人が61件。日本国籍で使用言語が日本語以外の相談は36件。外国籍だが日本語で相談を行ったのは378件。44か国から相談があった。

▽在留資格：家族滞在がさらに増加

身分又は地位による在留資格計43.9%：配偶者19.6%、定住者12.4%、永住者11.9%  
活動に基づく在留資格：家族滞在18.8%、その他



豊中市包括支援プロジェクトチームが主催する「くらしを守る総合相談会」に参加。外国人からの相談が多数寄せられました。

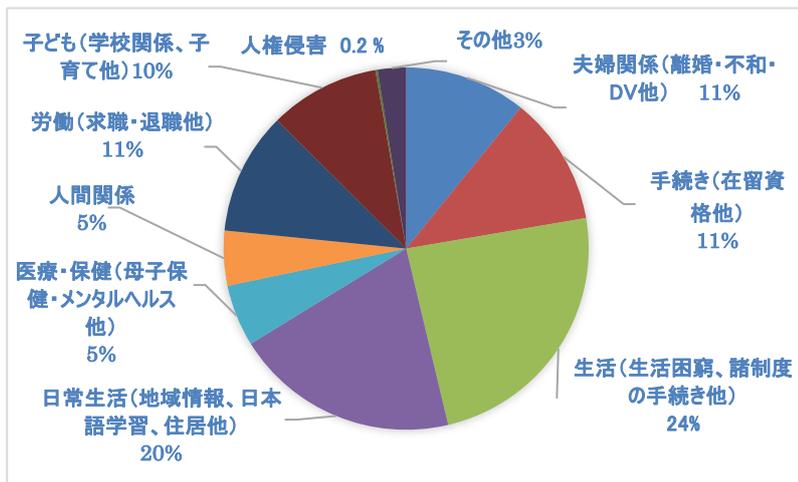


グループスーパービジョンを実施。スーパーバイザーは山中京子さん（コラボレーション実践研究所所長）。



写真上・右）リコン・アラート（協議離婚問題研究会）の「外国人のための1日離婚電話相談ホットライン」も4年目となりました。今年は大阪弁護士会主催で、年1回の活動として定着してきました。全国から相談が寄せられました。





2020年度相談内容別

韓国人コミュニティの交流会での集合写真。  
「久しぶりに集まって、家庭のこと、社会のことについて、思う存分語り合えてとても楽しかった！」  
今後も感染対策を徹底しながら、可能な範囲で交流の機会を確保していきたいです。



「日本語支援グループ・むすびめ」と協会で開催している日本語検定サポートは、毎年日本語能力検定試験前に実施しています。今年度は12月の試験対策のみ開催。実施回数のべ13回（写真は過去のものです）

### 2021年度に向けて

- ・ 困難な時なので、相談者とのつながりはより一層強くしていきたい。
- ・ 多言語スタッフの体制の充実
- ・ スタッフの研修の充実（在留資格などベースになる知識に加え、給付金や貸付金の制度に関する情報のアップデート、相談業務とプライベートの線引きについて、燃え尽き症候群の防止など）

## 【相談サービス事業における対応について】

### (1) ケース・ワークと他機関とのネットワーク（連携）

相談者の状況や相談内容が、諸制度を利用して問題の解決をはかる必要がある場合、ケース・ワークを行う。

豊中市在住の相談者について、相談者が他機関に関わっている場合、あるいは問題対応に他機関との連携が必要な場合は、関係機関で情報を共有したり協力するなど、より適切に対応できるようにする。

ケース・ワークが必要だが、相談者が遠方に住んでいたたり、当協会が直接の関係機関として関与しえない場合などは、相談者が住む地域の援助機関と連携をとる。その地域で多言語の援助がない場合は、当協会スタッフが相談者に対し、彼/彼女の状況を説明したり、相談者の希望や考えを援助機関に伝えるなど、仲介的役割を担う。

他機関では多文化対応が不十分な場合があるため、相談者の状況についてスタッフが機関に説明し、適切な対応を依頼する。また相談者は、どのような支援が受けられるか十分理解できないことが多いため、スタッフが相談者の母語で説明し、相談者の安心や納得を促す。その地域で多言語対応が可能な場合でも、相談者がスタッフへの相談を望む場合は、相談者の不安を支え、相談者が適切な支援を受けられるよう支援する。

### (2) 心理カウンセリング

相談者の悩みや問題について、相談者自身の内面に焦点を当てる必要がある場合は、心理カウンセリングを行う。相談者が自分の内面に目が向けられるよう、受容・共感・承認的応答を行い、自分の気持ちや考えに気づき、自分なりの決定や選択ができるよう支援する。

### (3) 情報提供等

日常生活における情報や、行政手続等に関する情報など、相談者が法・制度や地域情報等を知らなかったり、理解していない場合は、情報提供する。

例) 公営住宅の申込み、交通事故の対応、病院の情報、健康診断の結果について、確定申告、求職時の書類記入等

### (4) 安心して集えるコミュニティづくり

センターでの他事業を利用する来館者に対し、同国・母語の仲間と出会い、安心できる環境を提供する。コミュニティ内で集う人が安心できるようなコミュニケーションに注意したり、ニーズに対応するなどを行った。必要であれば、随時個別相談として対応し、また逆に、相談に訪れた人に出会いの場へ促すなどを行う。

学校とつなが  
ってつくる豊か  
な未来事業

## 国際教育

「多文化フェスティバル」、帰国・渡日児童生徒学校生活サポート事業での「多言語による進路相談会」など、学校や教育委員会との連携により、外国にルーツを持つ子どもたちをサポートしています。

### 2020 年度を振り返って

新型コロナウイルス感染症対策のため、「多文化フェスティバル」も「多言語進路相談会」も開催があやぶまれましたが、どちらも工夫を凝らし無事に開催することが出来ました。参加者は少なかったですが、「多文化フェスティバル」は例年に比べて子ども同士のつながりが深まったように感じます。豊能ブロック協議会の構成団体として実施した「多言語進路相談会」も、今年は中学3年生のみが対象となりましたが、外国にルーツをもつ子どもの進路保障の貴重な場となりました。



写真左) 協会のマスコットキャラクター「コモとスース」作りに挑戦  
写真右) 子ども同士で自己紹介ワークショップを行いました



### 2021 年度に向けて

「多文化フェスティバル」について、改めて開催内容や仕組みづくりをしっかりと考えながら、現場の先生とも協働して開催していきたいと思っています。「多言語進路相談会」は昨年度は対象とならなかった中学2年生以下の子どもたちへの進路保障ができるよう、学校や教育委員会等の関係機関との連携をしっかりと図っていきたいと考えています。

おとな  
サポート  
事業

## Filipino Young at Heart's Club (FYAHC)

2016 年度に（公財）大阪コミュニティ財団の助成を受けて実施した外国人高齢者の調査をふまえて、相談サービスで利用者が最も多いフィリピン人を対象として、40 歳以上の中高年向けの居場所を 2017 年 5 月から「Filipino Young at Heart's Club」として毎月 1 回程度開催しています。

### 2020 年度を振り返って

2020 年度はコロナの影響で例年行っていたピノイフェスタやクリスマス会などは実施できませんでした。

そんな中、秋には離婚・再婚をテーマにしたセミナーをオンライン（対面・Zoom・Facebook）で実施しました。このセミナーにはグループメンバーだけではなく、フィリピン行政関係者の参加もあり、ヤングハーツの活動が広く知られるようになりました。



写真上) セミナーとズンバは対面に加え Facebook と Zoom でライブ配信をしました。写真右) ズンバの様子



### 2021 年度に向けて

年金や日本とフィリピンの法律にかかわるセミナーを実施したいです。また、コロナ渦でメンタルダウンしているメンバーもいるので、状況をみながら対面での活動を実施して元気を取り戻したいと思っています。



## おとな サポート 事業

# 防災事業

災害の多い日本で外国人が安心して暮らせるように、大規模災害時の外国人支援につながる啓発活動を行い、災害時の支援体制を整備していく取り組みを各機関と連携しながら行っています。

### 2020年度を振り返って

災害時外国人多言語情報支援センターの業務として積極的に多言語での情報発信を行いました。また、新型コロナウイルスへの対応に限らず、台風や地震への防災意識を高めるため、外国人向けの防災セミナーを実施しました。このほか、災害時に事務局が被災し、十分に機能できない状況での対応も視野に入れ仙台市、武蔵野市、北九州市の国際交流協会との交流も始めています。



外国人のための防災セミナーの様子。講師は大阪大学の塚本俊也さん。

### 2021年度に向けて

外国人への防災訓練はセンターで行うだけでなく、アウトリーチを行い、外国人コミュニティと協働で取り組むなどの工夫を行っていきます。また、多言語での情報発信から一歩踏み込み、どうやって届けるかという視点から、発信媒体などの多様化やつなぐ人の確保などを進めていきたいです。

## こども 国事 事業

# 平和と共存のための～おまつり地球一周クラブ

小・中学生のための国際理解プログラム。地域に住む外国人を講師に迎えて交流しながら、様々な国、地域について学びます。

### 2020年度を振り返って

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため開催時間を短縮し、韓国とネパールをテーマにした2回しか実施できませんでした。

各回とも、動画や写真、その国の伝統的な遊びや工作などを通じて文化を体験し学びました。子どもたちは講師と積極的に質問などのやり取りをし、楽しみながら異文化体験をしていました。

### 2021年度に向けて

2021年度も体験を通じて多文化共生への理解がより深まるようなプログラムを企画・実施していきたいです。昨年度できなかった、お料理体験やフィールドワークも可能な状況なら実施したいです。



写真左上) ネパールの国旗作りの様子

写真右上) 子どもたちが作ったネパールの国旗

写真左下) 韓国のあそびチェギ(羽蹴り)作り

写真右下) 韓国のあそび タンタモッキ(陣取りゲーム)にチャレンジ

留学生  
ホストファミ  
リー事業

# 留学生・ホストファミリー事業

留学生とホストファミリーのホームビジット型の交流活動。半年から1年の期間交流しています。運営は「ホストファミリー世話人会」が中心になって、様々なイベントや日本文化体験事業も開催しています。



## 2021年度に向けて

コロナが収束したらホストファミリープログラムをもっとたくさんの方に知ってもらい、国際交流にもっと興味を持っていただけるよう努力していきたいと思っております。

世話人会の様子

世話人会より

## 2020年度を振り返って

2020年度は大阪大学とJASSOの留学生との出会いはありませんでした。月1回の世話会には活動していますが、なかなか前向きな議題がありません。その中でホストファミリープログラム再開後の交流希望についてボランティアのみなさんにアンケートをとりましたところ、約半数位は希望するという答えが返っていて、とても嬉しく思いました。早くコロナが収束して、留学生との出会いができることを切に願っております。

にほんご  
交流活動  
事業

# しょうない・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：庄内図書館)



写真) ZOOMでのおしゃべり会のようす



ボランティアより

## 2021年度に向けて

しょうないは外国人ママもボランティアスタッフも少ないので、来年度はメンバーを増やして、定期的に活動ができるようにしたいです。

## 2020年度を振り返って

なかなか直接会っての活動はできませんでしたが、オンラインでおしゃべり会をしたり、みんなでバランスボールをしたりしました。コロナ禍で人と会う機会が少なくなっていたので、オンラインであっても交流ができて近況などが話せてリフレッシュできました。

にほんご  
交流活動  
事業

# おかまち・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：岡町図書館)

## 2020 年度を振り返って

今年度はやっと秋頃に屋外(公園)での活動再開となりました。新たなボランティア募集も新たな外国人ママの参加希望もなく、昨年度と同じ顔ぶれでの活動になりましたが、ボランティアと外国人ママ双方にとって、子どもたちを遊ばせながら会って話せる貴重な癒しの場になっていました。色々と試行錯誤しながらも、細々と活動をつづけることが出来てよかったです。

ボランティアより



## 2021 年度に向けて

こんな状況ですが、新しいボランティアさんと新しい外国人ママの参加に期待したいです。また、屋外活動がメインとなりそうですが、季節の行事なども取り入れて工夫して活動したいです。



写真上) コロナ前のお料理会の様子、いなり寿司  
写真下) 屋外での活動、欧州のクリスマス飾り制作&完成品

にほんご  
交流活動  
事業

# せんり・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：千里図書館)

## 2020 年度を振り返って

コロナ禍で対面活動の制限が厳しい中でも、ZOOM を利用したオンライン活動を定期的に行い、地域の外国人ママたちとのつながりを保てるよう工夫しました。また、図書館での活動は感染防止対策を心がけながら活動しました。対面とオンラインのやりやすさ、やりづらさを経験しながら、状況に応じて柔軟に対応しました。

ボランティアより



## 2021 年度に向けて

外国人親子が日本で楽しく暮らせる居場所づくりに貢献していきたいです。引き続き、対面とオンラインを活用しながら、子育ての悩みや疑問等を気軽に話せるつながりを作り、その活動を発信していきたいです。



写真上) ZOOM でのオンライン活動。各自拾ってきた落ち葉や家にある廃材でお面を作りました。  
写真下左) 親子で満開の桜を作りました。お花見しているみたいで楽しかったです。  
写真下右) 気候の良い日はお外遊びも。

にほんご  
交流活動  
事業

# 千里にほんご

2017 年度からスタートした日本語交流活動。千里地域連携センターとの共催で、豊中市東部・千里地域での外国人の居場所、交流の場づくりを行っています。毎週木曜日 10 時～11 時 30 分。(会場：千里公民館、千里図書館)

ボランティアより

## 2020 年度を振り返って

コロナ禍での対面活動の難しさ、人とのつながりの大切さを痛感した一年でした。会場の一つである千里図書館集会室が使用できず、9 月から 11 月までの間、千里公民館にて隔週で活動してきました。ボランティア間の連絡や意思決定にスピーディーさが足らなかったことや、オンライン活動も早くに始めたほうがよかったとも感じました。



## 2021 年度に向けて

2021 年 5 月よりオンライン活動も始めることになりました。協会のサポートをうけながら、Zoom の操作方法等を学んでいます。学習者の皆さんがオンラインでも安心して参加できる活動にしていきます。



活動の様子

NEW

持続可能な  
地域づくり  
事業

# 南部にほんご/オンラインにほんご

2020 年度から開始。市南部の働く外国人向けに、庄内公民館とオンラインの教室を実施しています。南部にほんご：毎週土曜日 10:00～12:00 / オンラインにほんご：毎週木曜日 19:00～20:00

## 2020 年度を 振り返って

近年、市南部地域に住む外国人が増加している一方、その人たちが参加できる日本語の活動が多くないこと、またコロナの影響で対面での活動に参加できない方が増えていることを念頭に、10 月から 1 月までの 4 か月間、庄内公民館とオンラインでの活動を試験的に実施しました。



庄内公民館で行われた活動の様子

## 2021 年度に向けて

定例の事業として、南部日本語（毎週日曜日 13 時～15 時 於庄内公民館）、オンライン日本語（毎週木曜日 19 時～20 時）を実施していきます。



ベトナムの「教師の日」には、参加者からサプライズプレゼントをいただきました